

令和4年8月3日

＜小学生の音声を、地域防災・防犯に生かす＞ 地域実践学修「自主学修プログラム」川内班の活動

昨年度（1年次）に地域実践学修・「むらの大学」川内班で、村の地域防災のあり方について学修した原田凌羽（現行政政策学類2年）さんが、今年度は具体的に地域防災・防犯について現地・川内村で活動をはじめました。

6月から川内村駐在所を訪問し、地域防災・防犯について巡査部長の永沼俊彦様よりお話を伺い、原田さん自身が1年次に行った村民との交流・インタビューで得た「子供は地域の宝」という声を地域防災・防犯に生かすために、小学生の音声を録音し村内の有線放送・パトカーから放送することを提案しました。そしてこの度、福島県警双葉警察署川内駐在所のご支援と、川内村役場および川内小中学園のご協力により以下の通り活動を行うこととなりましたので、当日の取材方よろしく願いいたします。

【活動1】警察署と地域の関係について BON-DANCE でインタビュー

内容：警察署ブースに立ち寄られた村民の方々へ
地域防災・防犯についてアンケート調査

日時：8月15日（月）12:00～15:00

場所：川内村 ヘリポート（川内村役場隣）

【活動2】小学6年生の音声の録音

内容：地域防災・防犯について小学6年生の音声の録音

日時：8月30日（火）16:00～17:00

場所：川内村役場放送室

※9月21日～9月30日に収録した音声を村内にて放送予定

【活動3】小学生の音声放送の感想をインタビュー

内容：「秋の交通安全期間」中に村民の方々を訪問し、小学生の音声による放送についての感想をインタビュー

日時：9月28日（水）予定（※予定は変更になる場合があります）

場所：調整中

※取材ご希望の方はお問い合わせ先までご連絡ください。

◆原田凌羽さんのプロジェクトへの思い◆

「子供は地域の宝である」。川内村の村民は口をそろえてこう話す。少子高齢化が進む川内村では子供の存在はまさに「宝」であり、姿が見えたり、声が聞こえたりすれば自然と幸せな気持ちになるという。私が一年間川内村を訪問し、「むらの大学」で過疎地域の防災を学んでいて一番印象深い言葉である。

この言葉から、少子高齢化、過疎地域での地域防災において必要なことは「子供」が地域防災・防犯に参加することだと考えた。具体的には、防災無線やパトロール中の防犯放送を子供の声で発信する活動だ。地域によっては子供の少ない地域があり、地域の「宝」である子供の声を聞けない村民も多い。そこで、子供の声を地域の多くの人々に届けることができるのではないかと考えた。

さらにこれは、2つの効果を生むと考える。1つ目は、地域に子供の声を届けることによる地域の活性化だ。2つ目は、無線の内容に関心が高まり、情報浸透を促進する効果だ。聞き流しがちな村内放送を子供の声にすることにより地域防災・防犯の情報をより広く共有し、地域防災・防犯へつながると考える。この2つの相乗効果によって地域活性化と地域防災の普及を同時に進めることができるのだ。

(お問い合わせ先)

教育推進機構 特任助教・狩野 剛

電話：024-504-2872 携帯：080-1827-2194

メール：r530@ipc.fukushima-u.ac.jp